

ブレグジット後の英EU関係の展望

―グリーン・デール欧州vs.グローバル・ブリテン

慶応義塾大学大学院教授 庄司 克宏

*英EU関係の歴史の変遷

*主権回復対単一市場の一体性

*対立点となった公平競争条件とは

*EUはイギリスの最大の貿易相手

*イギリスはどう反論したか

*イギリスが金融より漁業を優先した背景

*昨年末に締結されたTCAは一時休戦

*5年ごとの定期的レビューという備えも

*日英EU連携と日本の役割

*政経両面で火種抱えるジョンソン政権



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は2年ぶりに慶應義塾大学の庄司先生に
おいでいただきました。英国はブレグジットに
よってEU離脱を決めました。完全にこれで
定着するのかどうか疑問な点が多々ござい
ます。日本は英国、EUそれぞれとEPAを締
結しておりますが、この辺の関係についてもま
だ読めないところがございます。そういう意味
でブレグジット後の英国とEUの関係がどうな
っていくのか、先生からじっくりとお話をいた
だきたいと思えます。

本日から2月末までコロナ感染予防のため、
無観客でやらせていただくことになりましたが、
通常どおりの講演会の形式で進めてまいります。
それでは庄司先生よろしくお願いたします。

英EU関係の歴史の変遷

庄司 ただいま紹介にあずかりました慶應義
塾大学の庄司でございます。本日は「ブレグジ
ット後の英EU関係の展望」ということでお話
をさせていただきますが、グリーン・デール
欧州対グローバル・ブリテンという部分は最後
に展望のところでも触れたいと思っております。

まずイギリスと欧州統合の関係が戦後どうい
うふうに変わってきたのかを簡単に踏まえま
す。2番目として、イギリスとEUの将来関係協
定の交渉というものがどんな形でなされてきた
のか、かなり紛糾したことをお話しします。その
結果できた貿易・協力協定というものがどんな
内容なのかを3つ目にお話しして、最後に、E